

2014年度 公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所
理事長 田中俊幸

はじめに

私たちは現在、長い不況の中に居ながらも、物質的には大変豊かな暮らしをしています。しかし、豊かさを実感出来ずに閉塞感が漂っている様に思います。人との関わりが無くても生きていける社会にこそ必要なものは、人が互いに敬い合える心の豊かさでは無いでしょうか。心の豊かさとは、日本の良き伝統や精神文化の中にあり、自己研鑽やおもてなしの心に学ぶ事が出来ると考えます。この混沌とした時代だからこそ、我々が心を豊かに気概を持って、率先して明るい未来を創り出して行かなければなりません。

乙訓青年会議所は、「この乙訓を良くしたい」という熱い想いを持った多くの同志が集い誕生しました。多くの先輩方が我々と同じように、明るい豊かな社会の実現を目指し活動を続けられ、その情熱と高い志が脈々と受け継がれ、本年35年目を迎える事が出来ました。先輩諸兄の掲げられた2020年ビジョン「地球市民意識あふれる乙訓」を旗印に、2004年には「人づくりから始まる誇りある乙訓創り」、2009年には『笑顔があふれる「市民が主役」の乙訓創り』と言う中短期行動指針を掲げられ、青年会議所運動を展開してきました。35周年を迎える本年度は、過去の検証を踏まえて新たな行動指針を打ち出し、地域の発展に寄与すべく運動して行かなければなりません。その為に、乙訓青年会議所メンバー一人ひとりがJAYCEEとしての気概と先輩諸兄から受け継いだ志を胸に、負託と信頼に応え続けていく必要があると考えます。

不動心、未来への原動力となれ

私はJC活動と合わせて茶道を習い、日本独自の伝統文化やその精神を学んでいます。その教えには、JAYCEEとして持つべき心の在り方と共通する物が数多くあると感じています。茶道の心を表した言葉に「和敬清寂」と言う言葉があります。この4つの文字には、全ての茶道の心が込められていると言われていています。「和」とは、文字通り人と人との和を表し、心を開いて付き合う事の出来る友情を表しています。「敬」とは尊敬を表しお互いを敬い、礼を尽くすと言う事を表しています。「清」とは裏表のない清らかな心である事を表しています。「寂」とは、和・敬・静を通して実践し、その中でどんな困難にも負けず、揺るぎない不動の心を得られると言う事を表しています。茶道の心として知られているこの言葉ですが、私はこの精神をリーダーが持つべきものとして重ね合わせ、まちの未来を見据えて活動していく事が必要だと考えます。我々が不動心を心に宿し、自信と誇りを持って取り組めば必ず明るい豊かな社会の実現に繋がるはずで。

明るい豊かな社会を実現する為にまず必要な事は、志の高い人物の形成では無いでしょうか。私の考える明るい豊かな社会とは、真剣にまちの事を考えて行動し、他人の事を思いやる気持ち

を持った人物が集うまちです。人を敬い、礼を尽くして感謝の心で人々が接する社会に争いは起きません。裏表の無い清らかな心で人々が集えば笑顔が溢れ、信頼出来る人間関係を築く事が出来るのです。そんな素晴らしい乙訓^{まち}を実現する為に、メンバー全員が不動の心で地域の原動力となって行動し、地域の方々と共に未来への礎を築いていく事が我々の使命であると確信します。

35周年の感謝を胸に活気あふれる乙訓^{まち}を実現しよう

乙訓青年会議所は本年、創立35周年を迎えます。35年もの間継続する事が出来たのは、先輩諸兄が様々な困難を乗り越え、熱い想いで行動し続けられたからです。我々現役メンバーは、脈々と受け継がれてきた創始の精神と先輩諸兄の志を受け継ぎ、誇りと感謝を胸に、新たな歩みを進めて行かなければなりません。素晴らしい乙訓青年会議所を継続する為に、そしてメンバーそれぞれが成長する為に、和・敬・静を持って不動の心で実践する必要があります。

この素晴らしい乙訓地域で活動する我々の運動は、先輩諸兄をはじめ多くの方々に認識して頂いています。35周年記念式典では、乙訓青年会議所の先輩諸兄や各地で活動されている同志の方々に対し深く感謝をすると共に、乙訓青年会議所の新たな5カ年行動指針を掲げその方向性を示します。

乙訓青年会議所では、二市一町の行政、関係諸団体、地元企業と連携を図り、地域の活性と郷土愛を育む事業を行って参りました。35周年記念事業では、継続してきた関係を更に深め、地域コミュニティの活性化に向けて取り組みます。多くの方が様々な気付きや学びを得るだけでなく、活気に満ちあふれた乙訓^{まち}の未来を共有出来る事業、それが乙訓青年会議所の行うべき記念事業です。様々な気付きや学びを得られる記念事業を成功させるには、乙訓青年会議所メンバーだけでは到底実現出来ません。だからこそ必要になるのは二市一町の行政と、地域を見つめ、素晴らしい乙訓^{まち}にしようと活動されている関係諸団体の協力です。これまで築いてきた絆を更に深く、太い物にしなが、この事業に関わる全ての方が一つになって取り組む必要があります。その結果、乙訓地域を輝かせる新しいネットワーク構築のきっかけになるのが、この35周年記念事業なのです。この事業を発展、継続させる事で2020年ビジョンの達成に近づき、創立当初から我々が目指す明るい豊かな社会へ繋がると確信します。

三位一体の乙訓^{まち}を創造し運動を広めよう

素晴らしい乙訓^{まち}を創造する為に、乙訓地域では様々な団体がまちづくりに繋がる活動を展開されています。この活動は自然保護、環境問題への取り組みや観光、まちおこし活動など様々です。我々も地域の方々と同じく素晴らしい乙訓^{まち}の創造を目指し、まちづくり活動を継続して行う事が必要です。

乙訓青年会議所では、まちづくり事業として長年にわたり水辺フェスティバルを開催して参りました。水辺フェスティバルでは、関係諸団体、行政、市民が三位一体となって活動するきっかけになりました。この事業は、乙訓地域の郷土愛を育み、地域コミュニティの醸成に繋がったものと確信

しています。しかし、単年度制である青年会議所メンバーは、地域の方々と関係を継続する事に大変苦勞を重ねて参りました。今後更に素晴らしい乙訓を創造する為に、我々青年会議所と関係諸団体の方々が、お互いの個性を尊重し合いながら同じ目標を定め、歩む事の出来る新しいネットワーク構築を目指す事が必要です。新たなネットワークとは、まちづくり活動をしている様々な団体が集い、より良い乙訓を創造する為に前向きに行動する集まりです。この集まりがあれば、常に同じ目標に向かって歩む事の出来る、素晴らしいまちづくりに繋がると確信しています。このネットワーク確立を目指し、行政と地域で活動されている諸団体との連携を更に強化すべく、相互理解を深める機会を創出して参ります。まちづくり活動を通し、乙訓を愛し行動する主人公を増やしていく事で、人との繋がりが和となり、まちづくりへの大きな波となって市民意識の改革を促し、明るい豊かな社会の実現に繋がると確信します。また、未来のまちのあり方を積極的に考える機会を提供すべく、公開討論会を推進し、地域の大人が責任を持って将来を選択する、市民主導型社会へと繋がります。

乙訓地域には我々青年会議所をはじめ、地域を愛し、地域の為に活動している団体がたくさん存在します。それぞれの団体がまちの為、人の為に活動されているのですが、その素晴らしい活動を知らない方々が沢山おられます。明るい豊かな乙訓を築き上げる為に、それらの素晴らしい活動を、少しでも多くの方々に周知させる必要があります。この活動を知って頂く事が、意識改革の一步に繋がり、また、我々の活動に対し理解を深めて頂ける事に繋がります。様々な活動を知って頂く為に、長年にわたり作成してきた広報誌を継続させ、行政や関係諸団体との連携を深めると共に地域諸団体に対しても発信し、我々の運動を広めて行く必要があります。また、引き続き地域で活動されている関係諸団体の取り組みを掲載する事は、連携の強化と市民に対し、各種活動への参加促進に繋がります。広報誌の他に現在は様々な情報端末があります。その中でもホームページ、SNSを利用する事で青年会議所運動の必要性を、積極的にアピールする事が出来ると考えます。それぞれの長所を生かし、乙訓青年会議所の「今」を伝え、青年会議所運動の取り組みやメンバーの姿を発信すれば、市民の方に広く理解を深めて頂く事に繋がります。また、メンバーに対しては、事業目的や内容をしっかりと理解して頂き、各委員会との連携を図る事が出来ます。まちづくり活動の一環として一昨年前より行ってきた地域振興検討会は、三位一体のまちづくりを行う上で重要な事業と捉えて取り組み、継続させていく必要があります。この検討会を通じ、関係諸団体の事業を発展させるだけでなく相互理解を深める事で、今後の活動にとって重要な絆を築く事が出来るはずです。地域に根差した公益活動を行う我々が、まちづくり運動を発展させる事で、乙訓青年会議所の存在意義向上に繋がると確信します。

青年会議所にはJCIをはじめ、日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会と様々な組織が外向という形で運営されています。各地で行われる組織に外向する事は多くの時間を作り、調整する必要があります。しかし、これをチャンスと捉え挑戦する事で、沢山の友情を育み多くの気付きや学びを得る事に繋がります。外向メンバーの経験を乙訓青年会議所の運動に活かす事で、人だけでは無く、組織としても成長を遂げる事が出来るものと確信します。

まち 乙訓の主人公を育て未来を担う子ども達を育もう

明るい豊かな社会とは、「自分さえ良ければ」と考えず「人の為」に行動出来る道徳心、主体性と実行力を兼ね備えた人々が集まっていると考えます。我々乙訓青年会議所メンバーは、その様なまち乙訓の主人公を創造する為に、自分自身が背中で示すべく、裏表の無い心でお互いを敬い、和を持って不動の心で実践する事で、成長を続ける必要があります。

青年会議所の理念である明るい豊かな社会を実現する為に、人づくり運動は欠かす事が出来ません。その為に乙訓青年会議所では、地域の方々にとって学びの場となるオープン例会や、人間力向上の機会を数多く提供してきました。今年度も人間力向上を目的としたオープン例会を開催し、公益な団体である事を理解して頂くと共に、地域に住まう方々がお互いを敬い、活気に満ちたまち乙訓の創造を目指し、活動します。人間力とは、道徳心、主体性と実行力を兼ね備えた人だと考えます。まずは市民の方々に、そして我々自身が志高い人格を形成する為に、和敬清寂の心に繋がる道徳心を学んで頂きます。道徳心を向上させる事で、人を敬い常に周りの事を考えながら行動出来る人物になれると考えます。また、活気に満ちあふれたまち乙訓にする為に、人々を魅了するリーダーシップについて学んで頂きます。人々の先頭に立って自ら実践出来るリーダーシップが備われば、多くの方々が同じ方向を向いて行動する事の出来る素晴らしい地域になるはずですが。そして我々は、青年経済人として、組織力を向上させる為の自覚を学ぶ必要があると考えます。組織力とはどんな困難になっても、逃げ出す事無くまとまって活動出来る実行力です。この実行力が向上すれば、あらゆる困難を克服する事が出来るはずですが。青年会議所の想いを伝えるオープン例会では、我々の活動を肌で感じて頂く事で、市民意識の改革を促し、いきいきとした活力ある人づくり運動に繋がると考えます。また、揺るぎのない信念を得る為に、自ら進んで修練を積む事業も実施して参ります。明るい豊かなまち乙訓を形成する、人間力溢れる主人公となるよう意識改革を行う事で、我々は一人のJAYCEEとして資質を高め、地域のリーダーとなりどんな状況においても不動の心で挑む事が出来ると確信致します。

まちを形成するのは人であり、まちを輝かせてくれるのは今を生きる子ども達です。しかし、少年非行や不登校問題、学級崩壊など青少年を巡る問題は深刻な状況に陥っています。その要因は親や大人、社会の在り方が大きく関わっているのではないのでしょうか。子ども達は与えられた環境の中で、私達大人の背中を見て成長していきます。子ども達を取り巻く環境を整えて行くのが親であり、地域の大人である私達です。私達大人が今一度道徳心を養い、慈愛の心を持って子ども達とコミュニケーションを図り、理解を深める必要があります。まち乙訓の宝とも言うべき子ども達の愛郷心を育てる為に、子ども達の模範となる事が、我々青年会議所メンバーの責務であると考えます。乙訓青年会議所では、毎年地域の小学生が集う文化少年団事業を開催しています。小学生とは言え、1年生から6年生までと年齢差がある子ども達が集うこの事業は、子ども達にとっても、様々な気付きや学びを得られる場となっています。小さな子どもに対する気遣いや、模範となるべき大人達の背中を見て行動する事など、この事業は子ども達の人間性を養う素晴らしい機会となっています。この事業を継続して行う事で、我々大人達も見習われるべき大人として、自分自身を律する必要があると気付く事が出来ます。この気付きと実践を継続する事が、メンバー自身の成

長に繋がる物と確信します。乙訓青年会議所では、乙訓ふるさとふれあい駅伝、ケイジャーズカップなど多くの青少年育成事業を行って参りました。本年度も行政、関係諸団体そして地域の方々と共に、多くの可能性を秘めた子ども達の健やかな成長を促し、未来を担う青少年の健全な育成に努めて参ります。

魅力ある仲間を増やし友情を育もう

乙訓青年会議所は近年60～80名の会員数で活動していますが、昨年15名のメンバーが卒業し、本年度は12名が卒業を迎えます。組織にとって会員数の減少は目的達成に向けた事業を実施する事が困難になるばかりか、組織の運営にも影響を及ぼします。また、市民意識の改革を行い、人づくり、まちづくりを推進している我々は、この活動を広げる為にも、同志である志高いメンバーを一人でも多く増やす必要があります。

青年会議所運動の魅力とは何でしょうか。私が考える青年会議所運動の魅力は、三信条で掲げる「奉仕・修練・友情」の体现です。私達は奉仕活動をする事で、街の方々から感謝の言葉を頂き、また街の方々も一緒になって活動する事で、素晴らしい関係の構築に繋がっています。奉仕活動では自分自身に課題を課す事で、苦労の中から多くの気付きや大きな学びを得る事が出来ます。この活動に真剣に取り組み、切磋琢磨する事で育まれる友情は何にも代えがたい、大きな絆となります。青年会議所運動を通じて得られる感動は、メンバー全員が必ず今迄に感じ取った事があるはずで、この感動を知るメンバーの魅力が伝われば、必ず会員拡大に繋がると確信します。素晴らしい青年会議所運動を継続して行う為に、メンバー全員が率先して、和敬清寂の心を胸に、会員拡大活動に取り組みなければなりません。また入会するメンバーに対して、活動の楽しさや受け継がれてきた志と共に青年会議所運動の意義をいち早く理解してもらえるよう伝える事が重要です。まちづくり、人づくりの為に、自分自身の修練の為に、そして固い絆を構築する為に、強い意志を持って取り組みれば、必ず会員拡大を達成出来ると確信します。

様々な奉仕活動や、まちづくり活動を行っている我々青年会議所メンバーは、それぞれの事業目的達成の為に、メンバー同士が協和し組織内部を充実させる事が必要不可欠です。また、メンバー同士が刺激をし合い、切磋琢磨するからこそ信頼が生まれ、それぞれの成長に繋がるものと考えます。会員間での親睦は、相互理解を深め絆の構築に繋げる事の出来る絶好の機会であり、この絆の構築が仲間を成長させる原動力になっていると考えます。この親睦の場を、素晴らしい場に設える事も、自分自身を大きく成長させる修練の場と捉える事が出来ます。相手の立場を理解し、尊重するおもてなしの心を持って行う準備や、演出に真剣に取り組む事、これこそ大きな学びを得られる場ではないでしょうか。交流で得られるメンバーの成長と固い絆を構築する為に、高い意識で設える事が求められます。また、設えだけでは無く、自分自身も多くのメンバーと絆を構築する事も大切な活動の一つです。表面上の付き合いでは無く、仲間の事を心から叱咤激励出来る関係の構築が、本当の絆づくりなのです。会員交流の場を通じ、今まで以上の信頼関係を築き上げ、絆を深める事で組織力の向上に繋がると確信致します。

信頼性のある運営を行おう

国の公益法人制度改革を受け乙訓青年会議所は、公益社団法人として認可され、数年が経過しました。公益社団法人として、この組織の運営方法や予算の執行に関しても、その責任を自覚し市民の方々にとって透明で、分かり易い運営をしなければなりません。

乙訓青年会議所では、公益法人格取得前から、予算編成、執行に関するチェックや、コンプライアンスに対する意識を高め、運営への組み込みを行って参りました。その結果、予算編成、予算執行の審査、コンプライアンスに関する審査を適正に行う事が出来る様になっているのは周知の事実です。今や公益社団法人である我々は、この様な運営方法を正しく執行する事は当然の事と言えます。この管理体制を継続出来る基盤を整える事が、今の乙訓青年会議所に最も必要であると認識しています。管理体制を継続する中で最も力を入れるべきは、財務体制のより正確な引き継ぎです。その為に、財務専用の引き継ぎマニュアル作りを進めて参ります。また、意識の高い会議の運営も必要不可欠です。より素晴らしい事業にする為に、事前に内容を把握した状態で会議に挑む取組みで、濃密で実り多い会議を実現して参ります。地域に根差した公益団体として、また、継続出来る強い青年会議所を作り上げる為に、新たな取組みで運営を推し進めましょう。

むすびに

我々は乙訓青年会議所という青年の学び舎で、それぞれが自分自身と向き合い、自分に足りないもの、必要なものを認識し、自身の成長の為に全力で活動しています。この青年の学び舎に入会したきっかけや動機は人それぞれであり、入会当初は何も分からない所から始まります。しかし、青年会議所活動を行っていくうちに損得では無く、人の為、まちの為に動く事が自分の意識改革になり、自分自身の成長に繋がると言う事を実感して行くのだと思います。私自身も、これまでの青年会議所活動を通して、多くの先輩から「面白く、楽しく、為になる」それが青年会議所であると教えて頂きました。そして、多くの人々と出会う中で、楽しさや成長する大切さ、喜びを知りました。それらを体感するには、メンバー一人ひとりが積極的に高い意識を持って事業に参画し、自ら真剣に取り組み、ベストを尽くす事が重要です。35周年を迎える本年度は、成長の場面が数多くあるはずですが、高いハードルである事が分かっているにも、感謝を胸に不動の心でメンバー全員が同じ方向を向き、想いを一つにして努力して行きましょう。全ての運動に全力で取り組み、一所懸命やるからこそ、メンバー同士が支え合い友情が生まれ、どんな困難も乗り越えられる組織の力になると確信しています。感謝を胸に、活気に満ちあふれた乙訓^{まち}を目指して……。